

## 鹿児島の昆虫43 パラサイト ～寄生という生き方～ 昆虫担当 金井 賢一

「寄生」と聞けば、皆さん良い印象は持っていないことでしょう。「知らないうちに食いつかれる」とか「怖い」というイメージを持っていると思います。しかし自然界の中では、多くの生きものがそれぞれ別々に寄生という生き方を手に入れて、繁栄しています。

光合成をする植物のように自分で有機物を作れない生きものは、他者から有機物を奪うことでしか生活できません。寄生もその方法の一つです。しかも、相手を殺さずに生きてまます。冷蔵庫のない自然界では、非常に有効な栄養確保の手段なのです。

## 寄生を選んだ生きものたち

寄生という生き方を選んだ生きものは、数多くいます。代表的なものを見てみましょう。

## &lt;節足動物&gt;

## ・膜翅目(ハチ目)

ハチというとミツバチやスズメバチを思い出す人が多いと思います。しかし、ハチの中で一番種類が多いのは、寄生生活を送るものです。チョウやガの幼虫に寄生するもの、昆虫の卵に寄生するものなど、たくさんの種類が見られます。



卵寄生蜂の脱出痕

## ・双翅目(ハエ目)

ハエの中には「ヤドリバエ」と呼ばれる、寄生生活を選んだ大きなグループがあります。産卵のしかたや寄生主に何をを選ぶかなど、種類によって特徴があります。

ハバチの幼虫に産卵する  
キアシハリバエ

提供: 吉村弘之氏(三宮市)

## ・ダニ目

ダニは昆虫と異なり脚が8本有り、頭部と腹部しかない節足動物で、昆虫よりもクモに近い仲間です。ダニには落ち葉などを食べるものや、ハダニのように植物を加害するもの、ダニを食べるダニなどたくさんの種類がいます。その中で我々のようなほ乳類から吸血するものはマダニなどごくわずかです。

マダニが媒介するウィルスが、発熱や腹痛

を発症させ人を死に至らせる「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」という病気を引き起こすということが近年解明され、鹿児島県でもそのような事例が過去にあったと、2013年に判明しました。身近な草むらやヤブにもマダニはいるので、長そで長ズボンなどを着用してかまれないようにする備えが必要です。



マダニの仲間

## &lt;線形動物&gt;

## ・センチュウの仲間

イヌの病気であるフィラリアや、松枯れを引き起こすマツノザイセンチュウ、ハラビロカマキリの腹部内を食べるハリガネムシなどがいます。特にハリガネムシでは、カマキリから出た後に生息できる水辺へと、寄生したカマキリを操り、放浪させることがわかっています。



カマキリから出るハリガネムシ

提供: 中村京平氏

## 寄生者に寄生する

マサキの葉に虫こぶを作るマサキタマバエは、隠れて生活しているので安全に見えます。しかしある種のヒメコバチは、この虫こぶを貫通して産卵し、寄生者であるマサキタマバエに寄生します。かなり高率で寄生するために、マサキタマバエが大発生するのを抑えていることがわかっています。



自然界では、利用できる資源を極力利用するよう、さまざまな生活様式が試され、生存可能なものが生き残ります。適した方法はひとつではなく、いくつもの生き方が存在できるのです。

マサキタマバエの虫こぶの中  
で寄生したヒメコバチの仲間